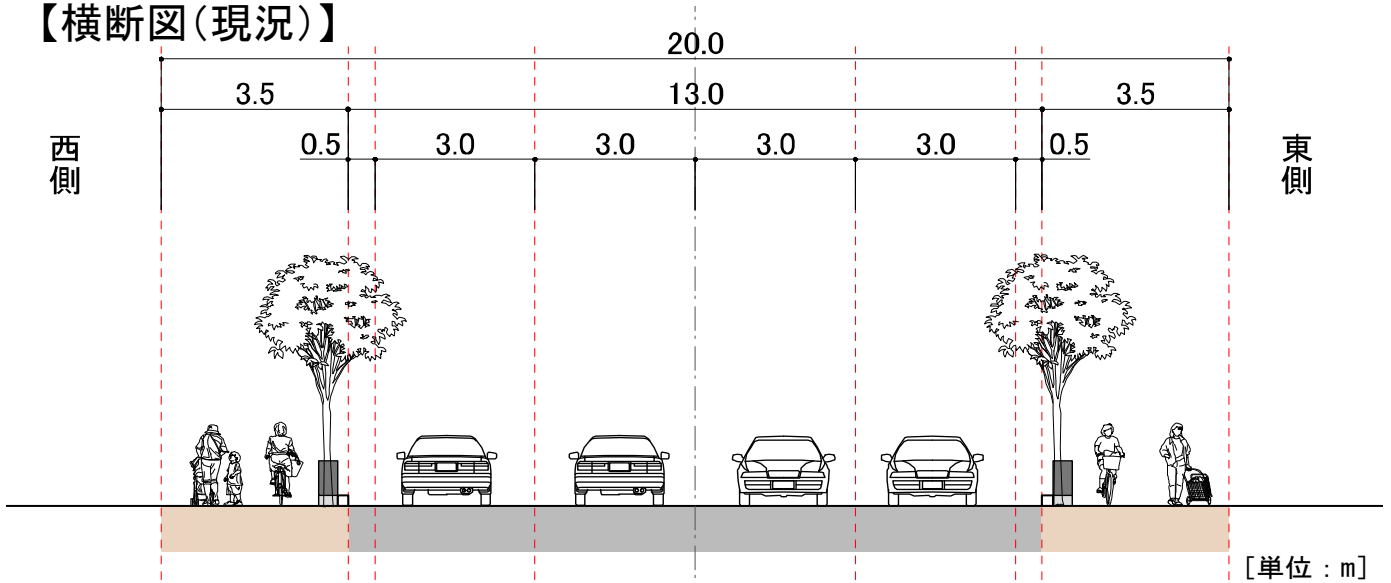


市道三溝線再整備の方向性について

市道三溝線再整備検討会(第1回)
平成30年5月30日(水)

- ・三溝線は駅北口交差点～八丁噺間の約900m(幅員20m:4車線)
- ・特に朝夕は自転車歩行者道(自歩道)で混雑が発生
- ・右折専用レーンがなく、追突事故の発生も懸念される

【横断図(現況)】



自歩道の混雑
(特に東側)

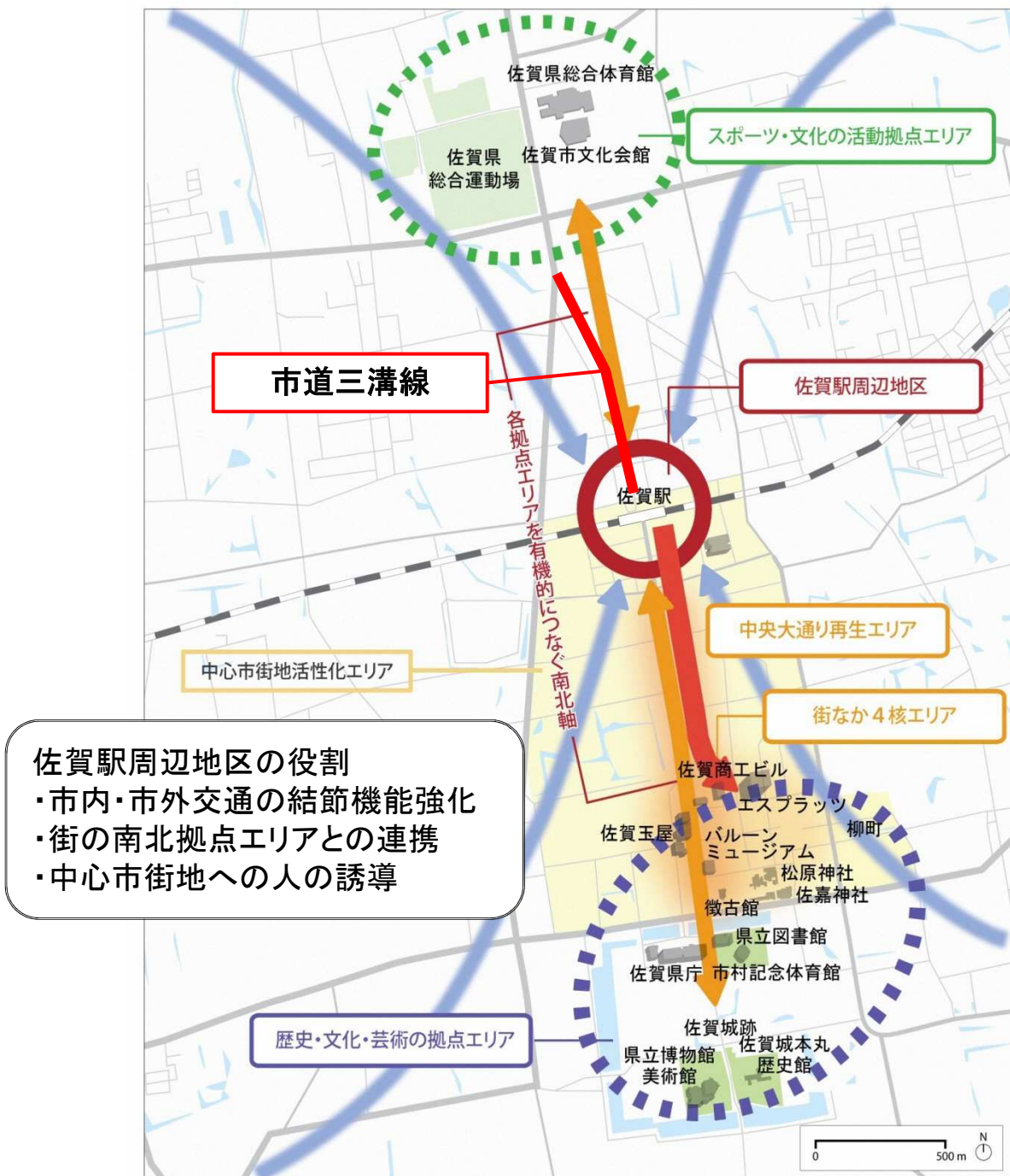
右折専用レーンなし
(追突事故の危険)

変則の交差点
(青信号が短い)

■市道三溝線の位置付け

- 「佐賀駅周辺整備構想」(H29.3)では、佐賀駅と拠点エリア（総合運動場周辺、城内・中心市街地周辺）とを結ぶ「南北軸の強化」を課題として提示
- 市道三溝線は、北側の拠点エリアに向けた「街の玄関口」であり「重要な動線」と整理

▼街づくりの視点（佐賀駅周辺整備構想）



■沿線の状況

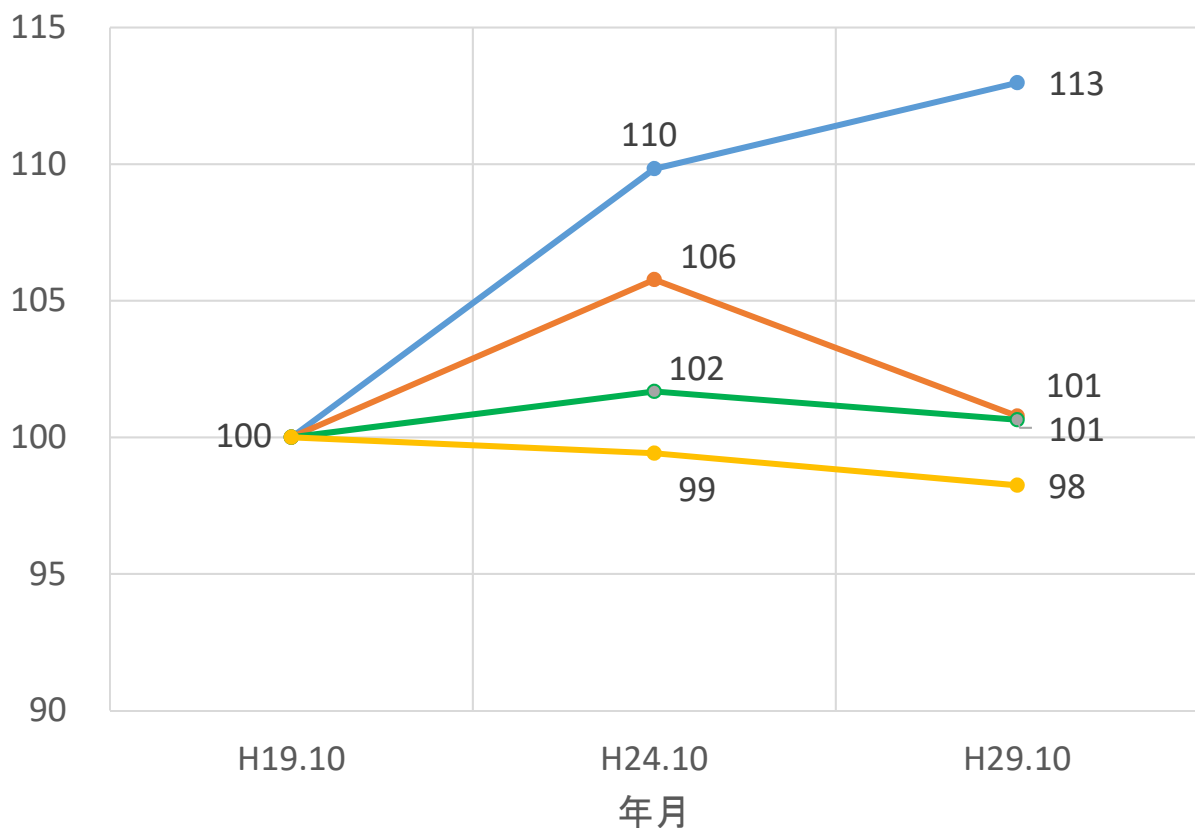
【人口の動向】

- ・福岡都市圏への通勤・通学者など、駅周辺では人口が増加
- ・特に駅北口エリアでは、人口の増加が顕著

住民基本 台帳人口	H19.10		H24.10		H29.10		増減率 H19→H29	
	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口
駅北口エリア	970	2,096	1,084	2,302	1,205	2,368	24.2%	13.0%
駅南口エリア	555	1,161	578	1,228	601	1,170	8.3%	0.8%
神野小学校区	5,142	11,389	5,229	11,580	5,497	11,462	6.9%	0.6%
佐賀市全域	90,659	238,478	94,779	237,086	99,301	234,287	9.5%	-1.8%

※駅北口エリア：駅前中央2丁目、神野東2・3・4丁目

駅南口エリア：駅前中央1丁目、神野東1丁目、栄町



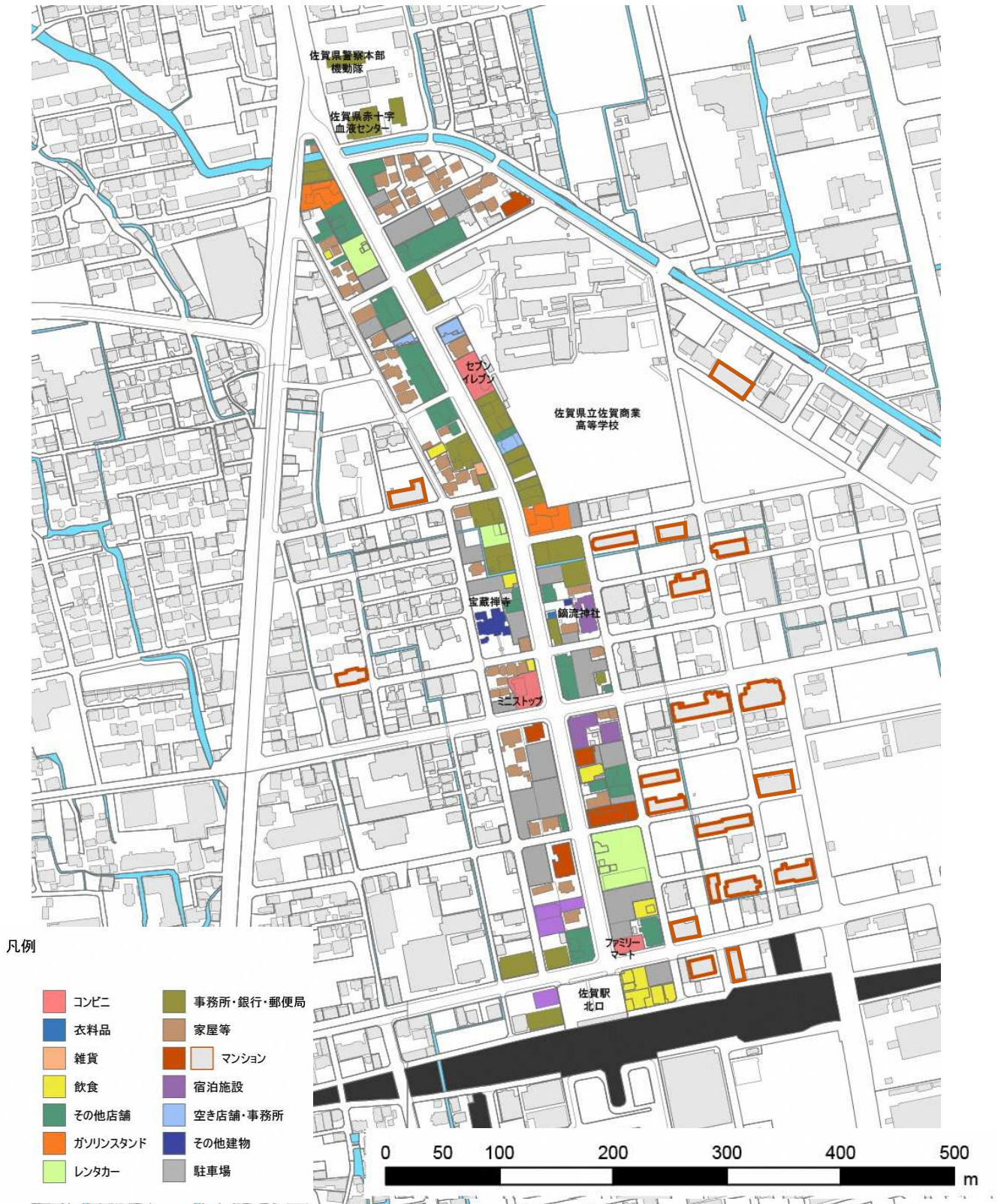
● 駅北口エリア ● 駅南口エリア ● 神野小学校区 ● 佐賀市全域

▲人口の推移(H19.10を100とした場合)

■沿線の状況

【施設(土地利用)の状況】

- ・沿線は佐賀商業高校のほか、店舗、マンション、駐車場が立地
- ・その背後には一般住宅が多く立地
- ・新たなマンション建設も進み、居住人口が増加



▲沿線の土地利用状況(H29.12時点)

■ 佐賀県総合運動場周辺整備による影響

国体等を見据え、佐賀県がアリーナ(8,000人収容)の新設を計画

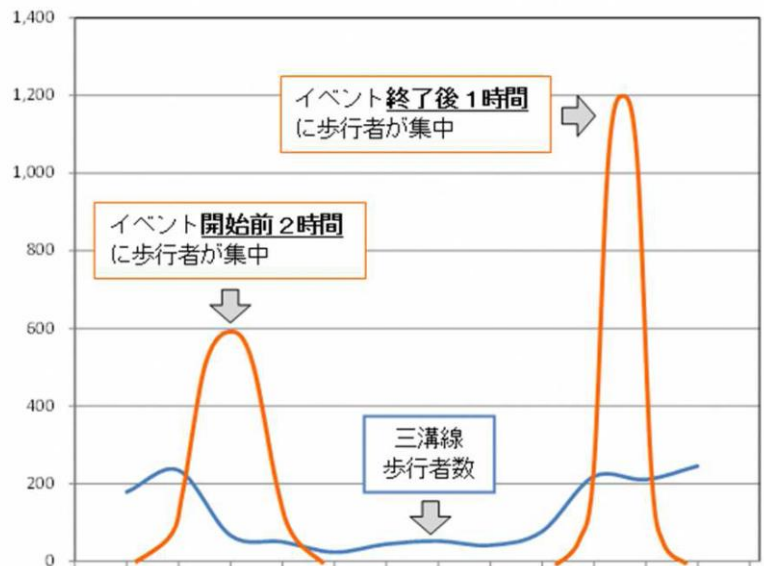


佐賀県総合運動場等整備基本計画(H29.3)

完成(2022年予定)後は、スポーツイベントやコンサートなど、駅からアリーナへと向かう歩行者が増加することが見込まれる
⇒徒歩やシャトルバスなど、多様な移動手段の確保が課題



▲さが桜マラソン会場へと向かう参加者(市道三溝線:東側自歩道)



▲アリーナでイベント(昼間)が開催される日の市道三溝線の歩行者通行量イメージ

※青色:現在の歩行者通行量(実測値)

赤色:4,000人規模(常設席)のイベントを想定

5 (うち1,200人が駅から徒歩移動と想定)

■歩行者・自転車の通行量(12時間)

歩行者・自転車とも、通行量は東側に集中している



三溝線(駅北口交差点)
(平日7:20)

調査日:H29.10.11(水)
12時間(7~19時)

■自動車交通量(12時間)

駅に近づくにつれて、交通量は減少する傾向にある



※三溝線以外の各路線の交通量は、
H27道路交通センサスによる

調査日:H29.10.11(水)
12時間(7~19時)

■自動車交通量(ピーク時:1時間)

交通容量(通過可能な最大交通量)に対して、余裕がある状態

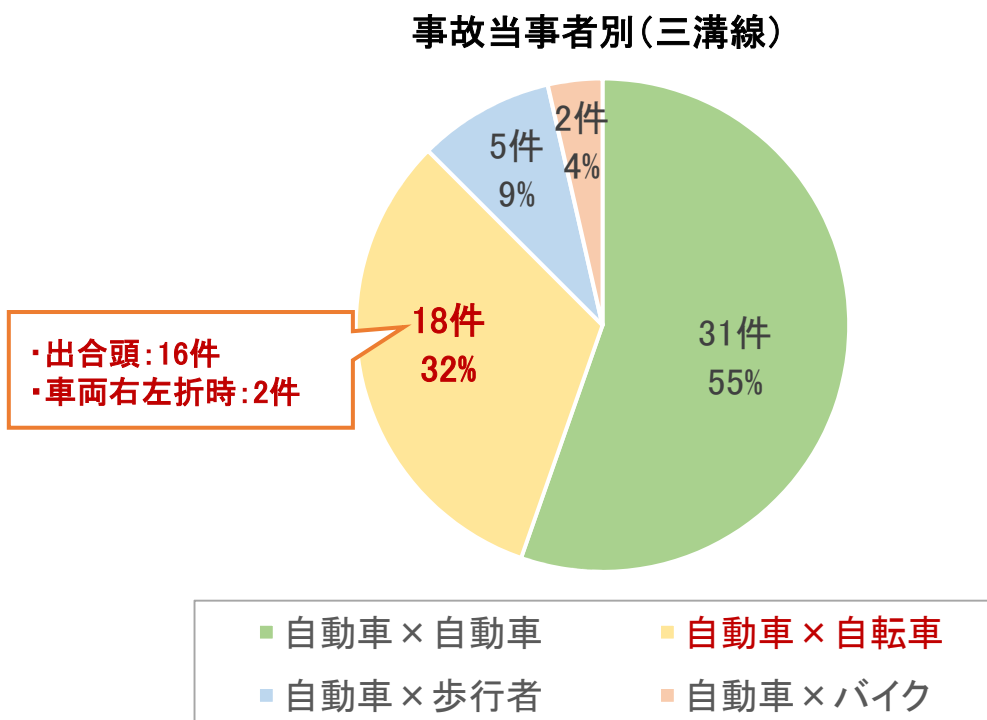
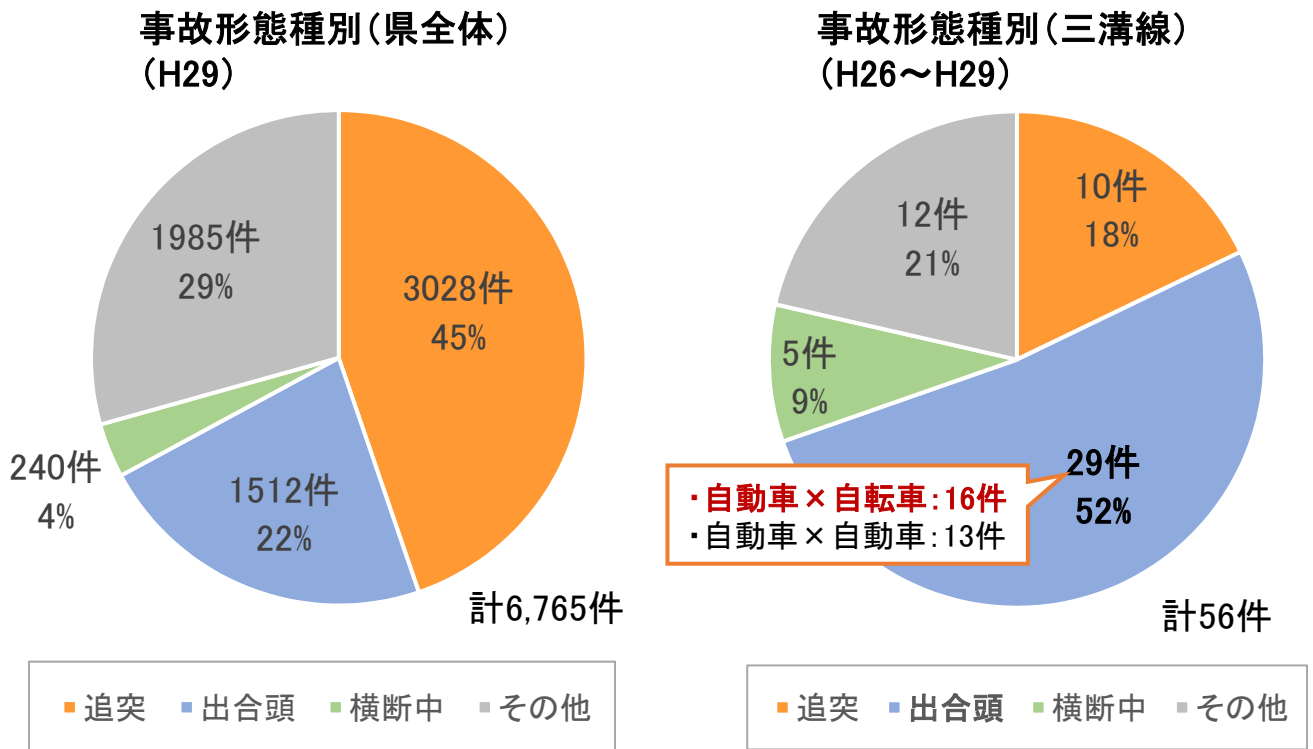


※三溝線以外の各路線の交通量は、
H27道路交通センサスによる

調査日:H29.10.11(水)

■交通事故の発生状況

- ・市道三溝線では、4年間(H26～H29)で人身事故が56件発生
- ・出合頭の事故が多いことが特徴で、その半数以上が自動車と自転車の事故となっている
(県全体では、追突事故が最多となっている)



市道三溝線で発生した事故の状況

ケース① 自動車×自転車(出合頭)
(H27.2.26 12時発生)
路地から出ようとした自動車が、
自歩道上を北進する自転車と衝突

ケース② 自動車×自転車(出合頭)
(H26.11.8 10時発生)
路地から出ようとした自動車が、
自歩道上を北進する自転車と衝突



ケース③ 自動車×歩行者(横断中)
(H29.6.15 7時30分発生)
横断歩道(東西)を横断中の歩行者と、
北進してきた自動車が衝突

ケース⑥ 自動車×自動車(追突)
(H27.7.13 9時発生)
右折待ちの自動車へ後続車が追突

ケース④ 自動車×自転車(出合頭)
(H27.3.3 17時30分ほか3件発生)
路地から出ようとした自動車が、
自歩道上を南進する自転車と衝突

ケース⑤ 自動車×歩行者(横断中)
(H29.2.9 8時ほか3件発生)
路地から出ようとした自動車が、
自歩道上を北進する自転車と衝突

事故の状況は、佐賀北警察署の記録を基に佐賀市で再現したもの

■交通事故ワースト1脱却に向けて

- ・佐賀県は、人口10万人当たりの人身事故件数が5年連続で全国ワースト1(H24~H28年)
- ・ワースト1脱却に向けて、国県市を挙げて様々な取組を実施
→平成29年はワースト1を脱却！



▲佐賀県キャンペーン

佐賀市
自転車利用者の
ルール遵守とマナ
ーアップを目的とした街頭指導
が9日朝、佐賀市のJR佐賀駅
周辺であった。市職員や警察官
交通安全指導員など約50人が交
差点に立ち、自転車の適切な利
用を呼び掛けた。

街頭指導は通学や通学で、自
転車の利用が増える駅周辺の3
カ所の交差点で実施。市職員や
交通安全指導員などが「自転車
でも交通安全」と書かれた看板
を持ち、自転車での安全運転を

市職員ら街頭指導



自転車利用者に安全運転の啓発チラシを配る交通安全指導員＝佐賀市の天神橋交差点

呼び掛け、啓発のチラシや反射
財など、500部を配った。市
内の各支所周辺でも、8日と9
日に街頭指導が行われ、交通安
全指導員が2日間で計1500
部のチラシを配布した。

佐賀北署交通課によると、
県内で発生した自転車での人
身事故は今年1月から3月末
までの間で124件、そのう
ちの半数近くが佐賀市内発生
しているという。同課は「自
転車事故は佐賀市が特に多い。
指導や取り締まりを強化して
1件でも事故を減らしたい」
としている。

(中村健人)

▲神野校区での取組(佐賀新聞H30.5.11)



▲交差点のカラー表示化の取組

交通事故「脱ワースト」へ 佐賀市が年間キャンペーン

県内自治体の中で交通事故
が多い佐賀市は19日、市
ストレールキャンペーン



交通安全キャンペーンの
号令をかける若葉保育所
の園児

同市は16年、人口1万人
当たりの人身事故件数など
9項目の事故発生状況を基
に算出した市町別の「交通
事故発生状況ランキング」
が県内ワーストを記録。17
年に汚名返上を目指し、キ
ャмпейンを始めたとこ
ろ、同年は5位に改善した
が、さらなる事故減少を目
指し今年も実施した。

式には約100人が参加
した。

し、秀島敏行市長が「脱ワ
ーストだけでなく、もっと
事故を減らせるよう精いつ
ばい頑張りたい」とあいさ
つ。同市の若葉保育所の園
児による号令で、白バイや
パトカーが出発し、市内の
事故多発路線で街頭指導し
た。

(穴井友梨)

さが
WIDE

▲佐賀市キャンペーン(西日本新聞H30.4.30)

■ 自転車走行空間に関する国の動向

【昭和40年代】

車社会の進展により、自動車と自転車の事故が急増

【昭和45年】

自転車の歩道通行を可能とする交通規制を導入

自転車＝車両という意識が希薄化
自転車が歩行者に接触する重大事故が増加

【平成24年】

国が歩行者と自転車の分離に向けたガイドライン策定
(車道通行の原則、自転車利用ネットワークの整備推進)

5月は自転車月間です

× 携帯電話しながら運転

こんな危険運転やめよう

× ヘッドホンなどをしながら運転

自転車はルールを守って楽しく乗ろう!

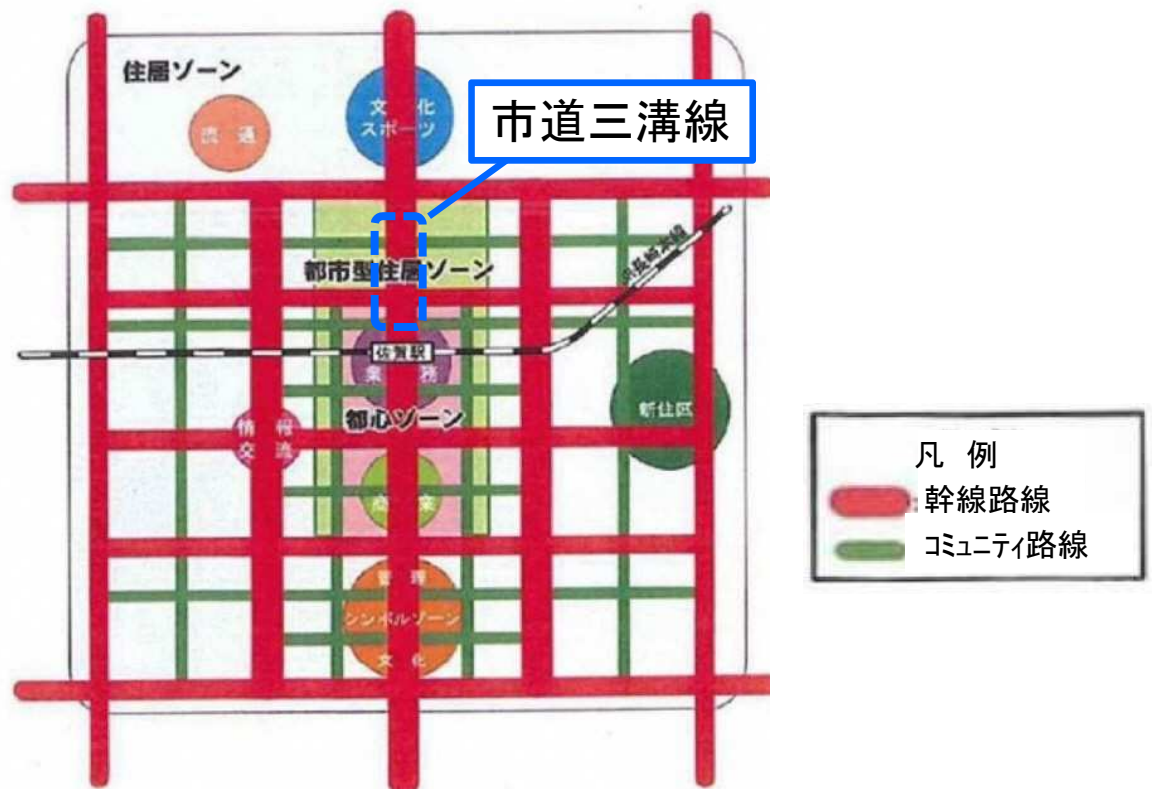
自転車安全利用五則

- 1 自転車は車道が原則 歩道は例外
- 2 車道は左側を通行しよう
- 3 歩道は歩行者優先で 車道寄りを徐行しよう
- 4 安全ルールを守ろう
飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
夜間はライトを点灯
交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
- 5 子どもはヘルメットを着用しよう

■佐賀市の自転車利用ネットワークの取組

- ・国のガイドラインに基づき「佐賀市自転車利用環境整備計画」を策定(H29.3)
- ・市内各道路の交通状況等に応じて、自転車利用空間の整備形態を分類




⇒市道三溝線は「自転車レーン」整備路線に該当



▲ネットワークのコンセプト図

目 安	整備形態
自動車速度が高い道路	→ 自転車道
上記・下記以外の道路	→ 自転車レーン
自動車速度が低い道路 かつ交通量が少ない(4000台以下) 歩道がない	→ 車道混在
自転車歩行者専用道路	→ 自転車歩行者専用道路

■ 自転車利用空間の整備形態

整備形態	概要
自転車道（一方通行）	<p>歩行者と自動車から物理的に分離され、自転車専用の道路として法的に指定された形態 一方通行を基本 自転車道の舗装は青系色を基本 【概略図】</p> 
自転車専用通行帯 （自転車レーン）	<p>歩行者と自動車から空間的に分離された、自転車専用の通行帯として法的に指定された形態 帯状路面表示は自転車専用通行帯の幅の全部とし、青系色を基本 【概略図】</p> 
車道混在	<p>歩行者と空間的に分離された、車道内を自転車と自動車が縦列で混在しながら通行する形態 矢羽根型路面表示を設置し、色彩は青系色を基本 【概略図】</p> 

（佐賀市自転車利用環境整備計画から抜粋）

■市道三溝線再整備の方向性(案)

背景

- ・佐賀駅へ向かう主要アクセス道路である
(歩行者・自転車・自動車)
- ・沿線人口が増加している
- ・交流人口が増加し(アリーナ新設後)、円滑な誘導が必要

課題

- ・自歩道内での輻輳・混雑
- ・歩行者を避けた自転車の急な飛び出し
- ・路地から出る自動車が自転車に接触する事故

- ・右折専用レーンが未整備の「不完全な4車線」
- ・本線上での右折待機による追突事故の懸念

道路空間の再配分

対応策

歩行者と自転車の分離
(自転車レーンの整備)

走行車線の最適化
(右折専用レーンの整備)

◎再整備(再配分)イメージ



【参考事例】市道江頭西湊線(佐賀市兵庫北:幅員20m)

■再整備に向けた社会実験(案)

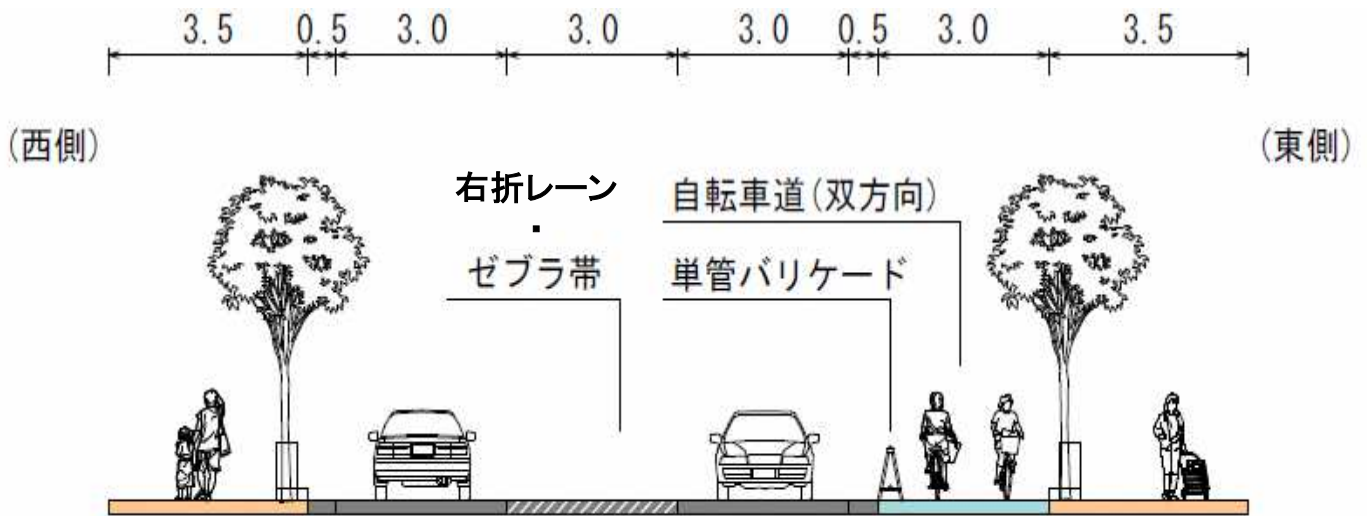
目的	・道路空間の再配分による影響（渋滞の発生、周辺の生活道路への流入）や効果（安全性向上）を検証
実施時期	・平成30年9月上～中旬 ・1週間程度（設置・撤去に前後各1～2日程度）
実施内容	・東側1車線を「自転車道（対面走行）」に変更 ・残り3車線のうち、中央の車線を「右折レーン」（信号交差点の手前）及び「ゼブラゾーン」に変更
検証方法	・渋滞の発生がないか ⇒交通量調査 ⇒渋滞長調査（信号交差点） ・周辺の生活道路に流入しないか ⇒周辺道路の交通量調査 ・安全で快適な歩行者・自転車利用空間になるのか ⇒沿線住民・佐賀商業高校生へのアンケート ⇒通行者への街頭アンケート ⇒自転車通行位置遵守率調査



検証結果を踏まえ、最適な再整備方針を
本検討会において協議・決定

■ 社会実験の実施イメージ

設置・撤去作業時の安全性・迅速性を考慮し、バリケード・テープ等による仮設とする



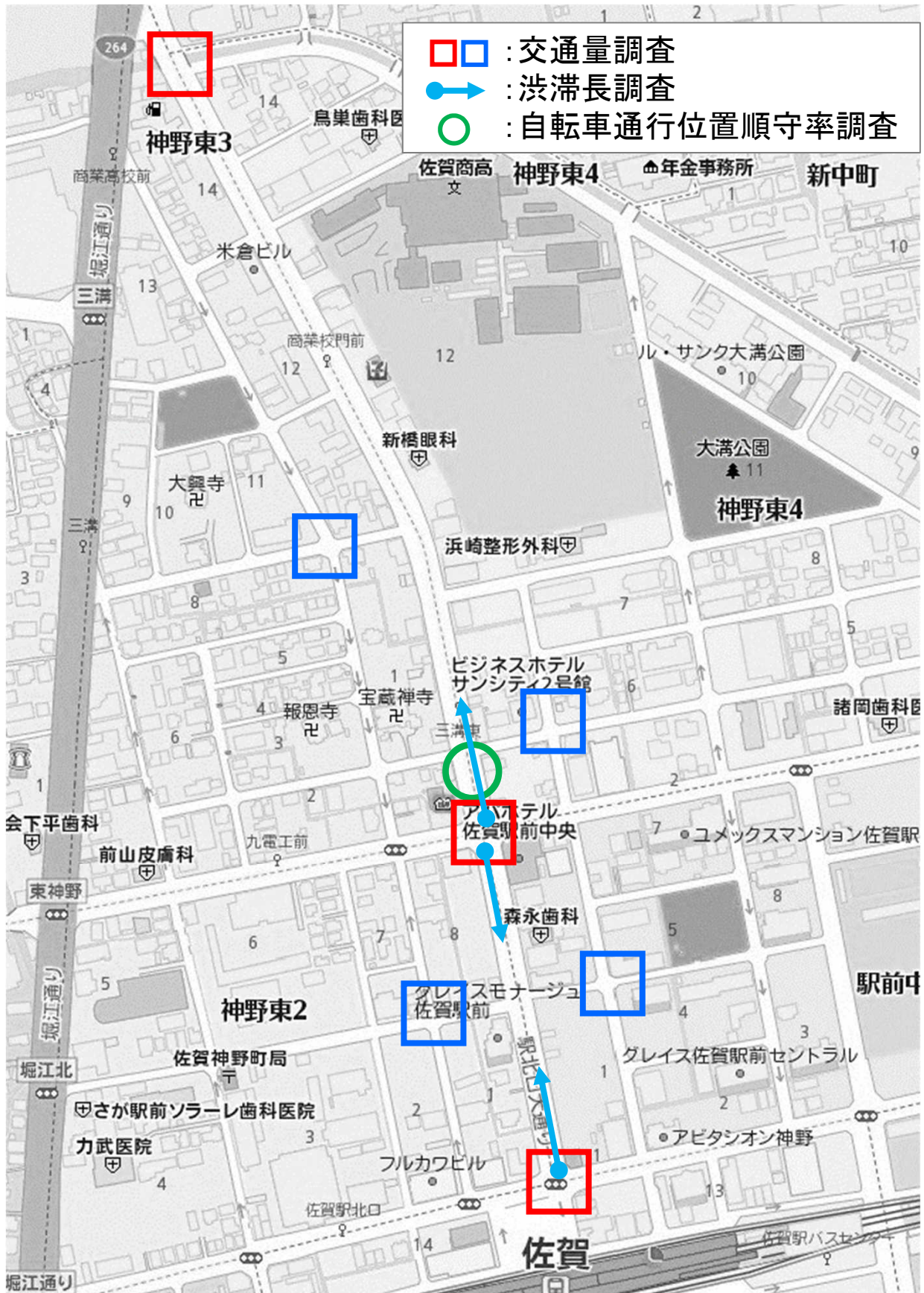
バリケードによる
自転車道の仮設



テープによる
路面標示仮設



■ 社会実験中の各種調査の実施箇所



・通行者への街頭アンケート

・沿線住民・佐賀商業高校生へのアンケート

歩行者・自転車の
安全・快適性を把握

■歩道空間の活用検討

歩行者と自転車の分離により、安全になった歩道空間を活用し、歩きたくなる空間づくりも可能となる

◎街づくりの拠点となる滞留・交流空間

事例1 松山市(花園町通り)

- ・車道を6車線から2車線に減少させ、広がった空間に自転車走行空間と、人の滞留空間を創出



十分な歩行者空間を確保しつつ、ベンチ等により滞留空間を創出



歩行者空間と分離した自転車道を整備

事例2 名古屋市(錦二丁目長者町)

- ・道路に面した民間スペースにウッドデッキを設置し、「街のリビングルーム」として新たな商業活動の場を創出



交流・賑わいの拠点となっているウッドデッキ



■ 歩道空間の活用検討

事例3 柏市(柏の葉キャンパス駅西口駅前通り)

- ・「ストリートライフのあるまち」をコンセプトに、舗装高質化や植栽、シンボルサイン・バナーを整備し、街路空間に憩いの場を創出



ベンチなどが設置された歩道空間



上) 案内板
下) シンボルサインと高木

◎ 歩きたくなる仕掛け・サインデザイン

事例4 佐渡市(相川地区誘導サイン)

- ・地区内に点在する産業遺産(金銀山遺産)の位置をわかりやすく案内するサイン案内板
- ・周囲の街並みと調和したデザイン性が確保されている



必要な機能を満たした、地区固有のデザインの公共サイン

■ 歩道空間の活用検討

事例5 長崎市(中島川公園)

- ・散策を楽しんでもらうための仕掛けとして企画された「ミッフィーかくれんぼ」



園内9箇所にミッフィーが隠されている



舗装材に埋め込まれたミッフィー

◎日常生活・健康づくりを支える空間

事例6 神戸市(小野浜公園とその周辺道路)

- ・アシックスの監修を受けてランニングコースを整備。公園内から周辺道路まで、神戸らしい風景の中を走る
- ・園内には、ウッドチップジョギングコースやストレッチ広場を整備



上) 既存道路を活用したランニングコース
下) ウッドチップコースとストレッチ広場



公園をスタートし、海沿いを走る5kmの周回コース

今後の進め方について

資料2

市道三溝線再整備検討会(第1回)
平成30年5月30日(水)

【スケジュール】

－社会実験前－

5月 検討会①	課題整理、社会実験の実施内容【本日】
6月 検討会②	社会実験の詳細な実施内容【6月 日() 時】
7月～事前広報	チラシ、市報、メディア掲載など

－社会実験－

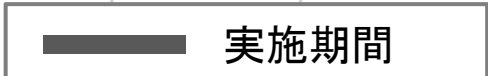
9月 社会実験	準備(設営)1～2日⇒実験7日間⇒撤去1日を想定 ※台風上陸が予想される場合は、次週に延期
---------	--

－社会実験後－

10月 検討会③	実験結果の分析、本整備に向けた方針検討
11月 検討会④	本整備の方針とりまとめ

社会実験日程(9月)

月	火	水	木	金	土	日
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
← 案① →						
10	11	12	13	14	15	16
← 案② →						
17 敬老の日	18	19	20	21	22	23 秋分の日
← 案③ →						
24 振替休日	25	26	27	28	29	30
← 案④ →						



実施期間

■各自治会へご協力をお願い

「検討会だより」の回覧

- ・「検討会だより」を毎回発行
- ・自治会で班回覧し、協議状況や社会実験の実施計画を情報共有

対 象

- ・周辺地区自治会(三溝、新家、草場区、駅東、八丁畷)

アンケート調査(社会実験中)

- ・社会実験の効果や課題点を把握するため、戸別配布方式(郵送で回収)のアンケート調査を実施

対 象

- ・市道三溝線の沿線エリアの各世帯(三溝・新家自治会の一部)
※配布方法・範囲については、自治会長と相談